

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2019

10

| | |
|-----------------|---|
| 無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし | 4 |
| 会員雑詠集「無人駅」 | 9 |

■例月句会結果■

| | |
|------------------|----|
| おかじょうき川柳社9月例会 | 19 |
| 十和田たてがみ川柳会 8月句会報 | 28 |
| 川柳吟行会「ぼ」 守田 啓子 | 26 |

■作品鑑賞■

| | |
|-------------------------------|---|
| —奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘 | 8 |
|-------------------------------|---|

| | |
|------------|-----|
| Infomation | 31～ |
|------------|-----|

「無人駅」抄

カンテラ

おかしょうき川柳社代表 むさし

古稀になって数ヶ月が経つ。股関節を含め体調は相変わらず良くない。

そのせいかどうか知らないが、何をやっても還暦の頃より処理スピードが落ちている。

スピードの低下は時間をかければカバーできるが、処理の質も落ちていくように思う。

そんなわけで、私の作る句の質も書く文章の質も落ちているはず。さて、どうするか。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

だるまささんが転んだ わたしも転んだ 吉田吹喜
テーブルの横に萎びた「おはよう」が在る 向山タエ子
護身用に鬼を1匹飼ってます 村上あつこ
秋深し裏も隣も空き家です 葉 閑女
サイコパス引きずり今日は爬虫類 石橋芳山
痛くないですかと鉛筆を削る 柳谷たかお

柳谷たかおさん、鉛筆は何で削っていますか？ナイフ？鉛筆を入れてくるくる回すやつ？それとも電動鉛筆削り器？いずれにしても、鉛筆は削られるように作られ

ています。だから、使う人は削らなければいけません。それなのに、たかおさんはいちいち「痛くないですか」と言いながら削っている。子どもの頃からそうしているんだろうな…。死ぬまでそうするんだろうな…。

B群

獣編に何を足そうか昼下がりに まきこ
見えない根っここのことを知らない樹 夏草ぶぶき
食は細くなる 月は丸くなる 鳴海賢治
黒揚羽よぎる食前血糖値 熊谷冬鼓
ふとあなた宇治金時を崩すとき ひとり静
思い出は少しピーマンぽいお尻 木村美映
花弁のふりさせる塞がらない傷 きささぎ彼句音
十年後のわたくしを笑わせに行く 守田啓子

守田啓子さんは、十年後どんな生活をしているのでしょうか。「笑わせに行く」だから、あまり笑うことのない生活が予想されるのかな…。ま、世界の、日本の、青

C群

ほうじ茶のゆるゆるパンツ的なとこ 奈良一艘
海を知らない道化師の手話だろう 月波与生
ジャマイカな蠍座並ぶ運指表 須藤しんのすけ
クーラーはちあきなおみの寒さまで 米山明日歌
革命の旗手は右手のない右手 田久保亜蘭

奈良一艘さん、「ほうじ茶」なんて飲むことあるの？まさか、「ほうじ茶」って名前のお酒じゃないでしょうね。そうか…、ビールやウイスキーや焼酎じゃなくお茶だからピシッとこなくて「ゆるゆるパンツ的」なのか。句を見たとき何だか分からなかったけど、なるほど…。世の中いろんな言い方があるね。にしても、「ゆるゆるパ

ンツ」ねえ(汗)

月波与生さん、この句、複雑ですね。わざと分かりにくく書いているみたい…。まず「海を知らない道化師」(普通のひとじゃないし、海も知らない)がいて、次に、その道化師の「手話」が出てくる。「道化師」は、「道化にたくみな者。道化を業とする者」(広辞苑第七版)。「道化」は、「人を笑わせるおどけた言語・動作。また、それをする者」(広辞苑第七版)。ということは、この「道化師」は「手話」で誰かを笑わせようとしている。相手は聾者、あるいは聾者達だ。ということ、一般的道化師ではない。ここまでは分かる。と、ここで「海を」「知らない道化師」と「知ってる道化師」ってどこが違うのだろうと思ってしまう。そして、「海を知らない道化師の手話」と「海を知ってる道化師の手話」はやっぱり違うような気がしてくる。しかし、どこが違うかは想像もつかない。「海を知らない道化師の手話」は「海を知ってる道化師の手話」より劣るってこと、つまり、作者の価値観を暗示しているような気もするけど、違うかな…。

宙だつてこと。スゲエんだね。

米山明日歌さん、「クーラー」をお使いですか。わが家には「クーラー」とかエアコンとか言われるものはありません。青森と桁違いに暑い静岡じゃ必需品でしょう。で、「いつものように幕が開き」で始まる名曲「喝采」で有名な歌手「ちあきなおみ」ですが、彼女は、夫の郷鉄治さんとの死別をきっかけに一切の芸能活動を休止しています。今どうしているか知りませんか？おっと、変な方へ曲がっちゃった。(軌道修正！)で、「ちあきなおみの寒さ」ってどういうことでしょう。「寒さ」ってことは相対的な言い方だから「暑さ」でもあるんだけど…。つまり、あんなに売れた歌手だったのに旦那さんが死んでから一切表に出ないちあきなおみ、「喝采」の中の「喪服」の人、そんなことを思わせる空気感、それを感じさせる温度にクーラーを調節してるってことかな…。すごいことやってるなあ、たぶん、違うなあ…(汗)

田久保亜蘭さんと最初お会いしたとき、ヤクザ屋さん

海を見たことのない人に海のことを説明するのはほぼ無理だつて言うしなあ…。そんなわけで、実はこの句が読者に何を訴えようとしているか私は未だに分かっていない。句の意味は分からなくても感じられればいいって話も聞くけど…。

須藤しんのすけさん、「ジャマイカ」ってカリブ海に浮かぶ小さな島だよ。そこで「運指表」と言えば「レゲエ」でしょ。ウィキペディアにレゲエのことを「広義においてはジャマイカで成立したポピュラー音楽全般のことをいう」なんて書いてあったもの…。ポップ・マーリーとかつて歌手がいたよな…。「運指」は「楽器を演奏する際の指の運び。ゆびづかい」(三省堂大辞林第三版)。「運指表」はその図を曲の流れに沿って「表」にしたもの。そこで問題となるのが「蠍座」。「蠍座」と言えば美川憲一の「さそり座の女」くらいしか知らない。それも歌詞をほとんど忘れてる…。調べたら「天の川沿いにある大きくて有名な星座」「明るい星が多く、全天でも明るい星座の一つ」だつて。つまり、レゲエの「運指表」は宇

んだつたんですね…。革命屋さんとかヤクザ屋さんで、外見はそっくりなんですね…(汗)で、「革命」というのは、広辞苑によると「従来の被支配階級が支配階級から国家権力を奪い、社会組織を急激に変革すること」であり「ある状態が急激に発展、変動すること」。「旗手」はある運動の魁(さががけ)をなす者(広辞苑第七版)。ここで問題になるのが「右手のない右手」。これって、何か変だよなあ…。で、無理矢理読むと、右手がなくてはいけないのにその右手がなくて、それでも右手を振り回しているってことになる…。違う？事故で右手を失った人の、ない右手が痛くなるって言うじゃないですか。あんな感じ…。句の読み方、どんどん自信がなくなってきたけど、ここでもう一回読み直すと、革命の魁をなす者は右手であるのだが、その右手がない、だけど右手である、ってことになる。ああ、こんがらがってきた。あれ？亜蘭さん、もしかしたら川柳の世界に革命を起こそうとしている？もしそうだったら、大いにやってくれたまえ。

深艘心理

室温を二度下げてから言いだした

米山明日歌

(おかしょうき8月号より)

二度下げる…ですか。ふむ。

そういえば、7月号の無人駅にも「髪型を変えて体温2度下げる 夏草ふぶき」という句がありました。女性作家にとって二度下げるというフレーズが今はやっているのか？それとも女性特有の何か特別な行動的意味性があるのか？

恐らくは後者。

現代女性の基礎体温の平均値は35.5℃であると今年の日本抗加齢学会で発表されたという。それを二度も上回

る体温になったという状態は病気などではなく、きつと怒っているのだろう。それもプンプンなどという生易しい怒り方ではなく猛烈にカンカンにヒートアップしている。誰に？何に？などと問うのはまさに無粋というもの。

しかし室温を下げたり髪型を変えたりして平熱で喧嘩の場に臨もうとしている冷静さはかなり怖ろしい。引く掻くための爪を研ぎながら先ずはガツンとした理論武装の準備に取り掛かっているのだ。うむ。

で、え、えーつと俺なんかしたっけ…(汗)

無人駅

おかしょうき川柳社会員雑詠集

★無人駅9月月間賞

脱ぎ捨てたズボン勝手に歩き出す

滝尻 善英

安藤なみ

【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

無味無臭たかまがはらのソーダ水
その他に投票権の返上欄
奥底に電車の揺れと違う揺れ
蜂の巣蟻の巣見ていない今夏
満月にススキ寂しすぎるキス

先月号のお気に入り
誰のための両手両足なのだろう
好きな一句として、脳に保存しました。
守田啓子

石橋芳山

【いしばしほうざん・島根県松江市】

ママチャリを飛ばしてレイバンのメガネ
返り血を浴びて静かな鯉呼吸
理由なき反抗砂肝が硬い
サイコパス引きずり今日は爬虫類
ののしりを受けてもじつとカブトガニ

先月号のお気に入り

岩根彰子

【いわねあきこ・京都府京都市】

八月の脳よオクラの断面図
法師蟬やんやんやんやんやんやんやん
残業が続いて脂ぎる月だ
青信号青信号青レモンの罨
手水鉢に集まる虚言癡家族

先月号のお気に入り
ギロチンのあとの手足が暴れだす
猛暑日にスコールを浴びました。
木村美映

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

辣蕪が光る深夜の芝居小屋
国道でハモンイベリコ取り逃がす
茹卵せつかく目と口彫つたのに
チキンナゲツト黒々と横たわる
月光を浴びて立ってる貝割菜

先月号のお気に入り

勘右衛門

【かんえもん・神奈川県横浜】

シャボン玉今日が憎くて堪らない
ちちんぷいぷい四角い汗よ丸くなれ
やまほどのこんちくしょうをもっている
シャイを溶かせば甘く酸っぱい水になる
情熱の火花あつちあつちつち

先月号のお気に入り
ノートルダム大聖堂の絆創膏
権威に絆創膏ですか(笑) 絆創膏を貼り付けられている
ノートルダムを思い描くと手塚治虫に辿り着く。
むさし

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

思い悩むジブんに悩まされている
触れそうになるとたちまち霧のふり
昼の月でも月でいたいと逝った月
どう泳ごうかシラケた腕の中
花卉のふりさせる塞がらない傷

先月号のお気に入り
なにげなく心にひよいとふれるもの
人でも物事でも作為がないって心に沁みますよね
北野岸柳

木村美映

【きむらびえい・青森県青森市】

梅雨明けのインクは青に換えました
聴きあきたリクエスト曲 夏です
外反母趾の女は信じない主義で
へんぷからこぼれるきみのエトセトラ
思い出は少しピーマンぽいお尻

先月号のお気に入り
暗殺者ひとり真夏の夜の夢
中村圭水をイメージしました。
小野五郎

熊谷冬鼓

【くまがいとこう・青森県青森市】

温度差を詰める擬音を探してる
鬼薊なるほどねって言っておく
黒揚羽よぎる食前血糖値
怖気づくあまりに空が青すぎて
手を放すまでは静かな豆の鞘

先月号のお気に入り
誰のための両手両足なのだろう
頼られてナンボーなんてね。ぎこちないけど私の両手足
も使っているよ
守田啓子

先月号のお気に入り

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

核ボタン停止するまで昼寝する
夕焼けが幽霊船を照らしてる
板門店が紙風船で遊んでる
雨の中癌病棟でダンスする
暗闇をカルチャーショックするホタル

先月号の
お気に入り

空晴れてやる気なくした洗濯機 城後朱美
僕は台風一過やる気なくした扇風機です。

鴛清五郎

【しませいごろう・滋賀県米原市】

気を付ける鳶が旋回毒虻
岩礁と四島異国国旗見え
池に映え逆さの山を消す羽音
橋渡る今じゃ人気の獣医大
水なんじゃ寂しい物よブルーギル

先月号の
お気に入り

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

母さんの明日を予約できますか
夫のやさしさラーメンのバリ固
ヘルパーさんを味方につけて嫁姑
生き方を問われ青汁残される
やさしさが欲しくて努力しています

先月号の
お気に入り

取り返しつかぬ言葉をおっことす 斎藤泰子
私にもよくあります。信用はゼロ。困っています。

Sin

【しん・青森県外ヶ浜町】

けだるいけものがにひきごごのすきまに
花びらのためらいをノックンしてしまふ
あらずじの襦袢がはだけてはだけける
雨のまにまに 何かに即位したい気分だ
あなたのからだのしたからなぞるあみだくじ

先月号の
お気に入り

新しい体にルビを振る仕事 須藤しんのすけ
また、怪しい副業始めましたね…。

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

撫子も海を自在に産み分ける
ジャマイカな蠍座並ぶ運指表
二秒ずつ遅れる姉の砂時計
季語のない歓楽街でする焚き火
フェイクファー羽織る反社の滑り台

先月号の
お気に入り

癌病棟の廊下で待つ貸本屋 笹田隆志
生きるって多分こんなことですね。

高橋星湖

【たかはしせいこ・青森県むつ市】

変化球今ならどんと受け止める
近頃は伸び悩みです指の爪
じゃんけんぼん犬の雄太はグーで勝つ
生きるってかなりしんどいセロリの香
鍋磨きウツを吹っ切るお呪い

先月号の
お気に入り

心字池見込み違いの男を掴む 岩根彰子
後悔しきりです。私も。お仲間に入れて下さい。

瀧尻善英

【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ハバネロを掛ければウルトラマンになる
逆鱗へ触れないように及び腰
炎天のなか着ぐるみのマモルさん
経験とスキル分母に腹くるる
肩たたき券の期限がもう来てる

先月号の
お気に入り

ギロチンのあとの手足が暴れだす 木村美映
なんと残酷な。夢見がわるくなりそう…。インパクトが
強すぎます。

田久保亜蘭

【たくぼあらん・秋田県五城目町】

昨日きた道を帰っていく明日
いろいろな組み合わせかた殺しかた
革命の旗手は右手のない右手
シンゾウが僕を殺しにやってくる
知ってる事全部ばらすオリゴ糖

先月号の
お気に入り

美しいものしか映さない田んぼ ひとり静
まるで静さんかボクの美しい「瞳」のようですね。なん
かコワイんですけど…。

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

前倣えして方舟を待つばかり
寝苦しい夜おとり鮎急募する
右側に立つと木馬はがらんどう
海を知らない道化師の手話だろう
アシンメトリー仲間のはずれの夜が来た

先月号のお気に入り
古紙縛る波打際はこのあたり 熊谷冬鼓
川柳の句集はほとんどが古紙になっている。波打際はとこだらう。

土田雅子【つちたまきこ・青森県青森市】

ダミ声の相棒の居る星月夜
捨て駒になつて美味しい濁り酒
うわばみの友が来るから介助して
神泡か罪か くだんの生ビール
空色の盃 献杯は続く

先月号のお気に入り
心臓つるつる カンタータが終わる 小野五郎
クラシックを聴くと眠くなるのは、つるつるのせい？

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

窓越しに食むリズムアンドブルースを
蟹の歩みに似ています目撃者
徘徊中なれど水分補給中
食は細くなる 月は丸くなる
非現実的なこと喪服は知っている

先月号のお気に入り
初夏の帽子どこまで飛んでいくんだろ ひとり静
未来を予想することに楽しみを感じました。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

まつぶたつ昔のままの音がする
炎帝は顔面ばかりそこばかり
ふとあなた宇治金時を崩すとき
そう言えばだれにも会わぬ道になる
葬送の空いつばいに蝉時雨

先月号のお気に入り
新しい体にルビを振る仕事 須藤しんのすけ
どんなルビを振ってもいいのでしょうか。そんな仕事やりたい。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

見えてない根つこのことを知らない樹
気の抜けたサイダーだって認めなさい
いつだってすぐ帰るから鍵がない
停電が続く病人のいる部屋
呻きだす蛍光灯のいる夜なか

先月号のお気に入り
きつとから多分変わるマヨネーズ 熊谷冬鼓
うんうん、緩くなるんだわ

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

でもって、行く末は彼岸花の根元
腹巻きは立て網にして竹取物語
ざる蕎麦ズルズル少し長く生きすぎた
ほうじ茶のゆるゆるパンツ的なとこ
右折して蝉の抜け殻めいてゆく

先月号のお気に入り
せめだいんでくつつけてしまおうか Sin
いけないところにいけないものをくつつけてはいけませんぞ。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

春と夏マロンケーキの香りする
冷静にアイスコーヒーの振りする
温泉は猛暑の為に立ち上る
子守歌明日は坊や君の日だ
波が立つきつと帰ると決めたから

先月号のお気に入り
アホ面になるのも仕方がないね バラ 吉田吹喜
アホ面のバラ！

まきこ【まきこ・青森県青森市】

獣編に何を足そうか昼下がりが
黄昏のページに腰を据えている
機嫌よく生きてお手玉まだ続く
屋根裏の金魚 飛んでみようかな
切り札は笑顔しかない雨静か

先月号のお気に入り
泣き虫にやっと戻れた月の位置 きざらぎ彼句吾
ロマンがありますね。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

お互いを尊重し合いねじり棒
ほぐされて脆さ軽さが露呈する
ストーカーだろうか風が重すぎる
遠回りし過ぎて季節また迷う
旅立ちをいつにしようか本綴じる

先月号の
お気に入り

玄関を開けてたどり着く砂漠 夏草ふぶき
内も外も広大な砂漠、で、家で待っているのはなんだろう。。。。

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

つきまとう女という邪魔な尻尾
姑息な猫がネズミの餌を仕掛けてる
煮干しポリポリ敬老の日の招待状
魯山人が内緒にしてた味覚障害？
テーブルの横に萎びた「おはよう」が在る

先月号の
お気に入り

次の世は妻に飼われる猫になる 田沢恒坊
我が夫の心境をスバリ言い当てられた気がしました。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

天使にも悪魔にもなる認知症
締め付ける絆を切れれば飛べるかな
正装で避けて通れぬ水たまり
護身用に鬼を1匹飼ってます
切り札にへのへのもへじ書いてある

先月号の
お気に入り

どしゃぶりの真っ只中の委任状 守田啓子
そんなときに委任状を出されてもね、

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

既視感のある夕陽サイドミラー畳む
がまの穂よ整列をして待ちなさい
死ぬ前も後もなんにも変わらない
十年後のわたくしを笑わせに行く
夢なのか二番ホームの青い山脈

先月号の
お気に入り

眠りましょ自己分析をするように まみどり
そんな難しいことしてるんですか？

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

痛くないですかと鉛筆を削る
鉛筆を削りそろえてくぐる門
来る秋へ中世の詩集月齢表
木漏れ日を浴びる羽化するまで浴びる
天に地に拉致されやすくなりました

先月号の
お気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

待ち人の代わりにポツとのちの月
月見てもかなしいなんて言うもんか
憎まれ口きいてさみしい花いちもんめ
秋深し裏も隣も空き家です
帰りますハンターズムーン浴びながら

先月号の
お気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

だるまさんが転んだ わたしも転んだ
青々と揺れている疑問符の森
三日月よ 鬼灯が死んでしまいます
とんがった末の末の黒い髪
ひまわりのため息続く熱帯夜

先月号の
お気に入り

役立たずそれがどうしたカエルぴよん まきこ
開き直りくあいが 小気味良いです。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

真夏日を日傘がとおる白樫
星々が鏝められた西瓜割る
パクパクと寝返る金魚熱帯夜
大寒の生まれ夏日のチョコレート
白桃のかすかな鬱を飲み込んで

先月号の
お気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

デッサンの始まり 赤いつぼみ描く
クーラーはちあきなおみの寒さまで
たぶんです三日坊主の一日目
昼寝から覚めて人間やり直す
ぎりぎりの形のポーズ月光写真

の号の
先月お
気に入

母さんの視野で眠った頃がファソ きさらぎ彼句吾
彼句吾さんなら、ラシは、すぐく素敵なんだろう、と
思いました。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

キャッシュカードは只今前立腺肥大
俺の名刺が「お前誰だ」と聞いてくる
生ビールになるかも知れぬ図書カード
空を千切って心の穴を埋めてゆく
頭の中でくるくる回る気圧計

「無人駅」は会員の自由な発表の場です。
新作5句をお送りください。
また、お手元の最新号からお気に入りの句と
簡単なコメントもお寄せください。

宵宮で
買った来た

9月7日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(15名)

むさし・奈良一艘・熊谷冬鼓・まきこ・葉閑女・渡邊こあき・吉田吹喜・
土田雅子・坂本清乃・守田啓子・夏草ふぶき・北野岸柳・Sin・
須藤しんのすけ・木村美映

▼投句者(14名)

米山明日歌・岩根彰子・村井規子・村上あつこ・勘右衛門・鳴海賢治・
三浦蒼鬼・笹田隆志・城後朱美・柳谷たかお・まみどり・きさらぎ
彼句吾・石橋芳山・田久保亜蘭

おかしようき川柳社 9月例会

席題 『まから始まる句』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

真夜中のメール魔女から魔女たちへ 渡邊こあき
 マイムマイム好きだったなんて言わないで 葉 閑女
 真に受けて台風の目の中にいる 渡邊こあき
 マンボウが徘徊しだす九月闇 土田雅子
 待ってたりしないコスモス見てただけ 葉 閑女
 まあまあとなだめられてる鬼あざみ 渡邊こあき
 マリア・カラスがさつき胸ぐら掴んだの 夏草ふぶき
 まなざしは黄色カルテットに移行 土田雅子
 マニユアルは売り切れました後妻業 まきこ

マンションという名の小屋で食べる夢 吉田吹喜

真後ろの鏡に映るあなたの微罪 S i n

満タンの750ccと見る流れ星 須藤しんのすけ

真っ先に玉葱ですと言われても 守田啓子

前へならえ 湯剥きトマトが並んでる 熊谷冬鼓

まあまあとしやしやり出たのは真四角A まきこ

【秀逸】

麻婆豆腐を頭の上で煮立ててる 夏草ふぶき
 マルメロがひとつ戒名はふたつ 奈良一艘
 まさかでしよまさかでしよってみんな死ぬ 守田啓子

【特選】

幕間にあの世とこの世を入れ替える S i n

*「幕間」は、なんでもできるのだ。

席題 『まから始まる句』

青森県弘前市 奈良一艘選

【佳作】

幕間にあの世とこの世を入れ替える S i n
 真緑の中駆け抜ける風九月 須藤しんのすけ
 真っ黒な疲れだから夏は嫌い 吉田吹喜
 マンボウが徘徊しだす九月闇 土田雅子
 マイペースな当てずっぽうに当てられる 熊谷冬鼓
 真夜中のブランコを漕ぐ影の群れ むさし
 満タンの750ccと見る流れ星 須藤しんのすけ
 満月にタックルされた 若かつた むさし
 真っ先に玉葱ですと言われても 守田啓子

麻婆豆腐を頭の上で煮立ててる 夏草ふぶき

まなざしは黄色カルテットに移行 土田雅子

まさかでしよまさかでしよってみんな死ぬ 守田啓子

真夜中のメール魔女から魔女たちへ 渡邊こあき

まあまあとしやしやり出たのは真四角A まきこ

負けず嫌いです他人より咳をします 吉田吹喜

【秀逸】

前へならえ 湯剥きトマトが並んでる 熊谷冬鼓
 マリア・カラスがさつき胸ぐら掴んだの 夏草ふぶき
 マカロニの芯を売ってる似非家族 むさし

【特選】

まったりと夜 第三のチャプターへ 守田啓子

*まあね、そつやつてきてくいでゆくのせしよ。

宿題『絵』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

似顔絵にしぶしぶ払う500円
 ママの顔美人に描いて褒められる
 お隣のピカソははにかみ屋である
 モナリザが真つ直ぐ俺を見つめてる
 モナリザが腹が減つたと泣いている
 「アイシテル」ととなえて影絵から抜ける
 ならめつこしましよムンクの叫びさん
 極太のクレヨンで描く雨の音
 終活の絵はやんわりと桃の色
 絵の中の風を感じる展示室
 自画像が後ろばかりを向きたがる
 描かれて十年セロリまだ青い
 絵心が足りぬ真夜中の地図帳
 終活終えても絵の具が乾かない

吉田吹喜
 城後朱美
 鳴海賢治
 田久保重蘭
 夏草ふぶき
 むさし
 柳谷たかお
 まみどり
 奈良一艘
 村上あつこ
 渡邊こあき
 夏草ふぶき
 まみどり
 きさらぎ彼句吾

デッサンにかすかに秋の加齢臭

三度目の右折 絵の具は黒ばかり

老人をぬり絵のように塗りつぶす

モナリザの笑みにミサイル引つ掛かる

絵日記のブランコいつも向かい風

海へ出るドアを二人で描いている

【五客】

騙し絵に住んでかれこれ半世紀

濡れたままです再生紙のちぎり絵

絵に描いた餅を上手に食べる人

風の絵を描き終わるまで帰れない

絵日記の私はいつも笑つてた

【人位】

どの色を足しても父と母の色

【地位】

へのへのもへじ笑わせるまで描きました

【天位】

タイトルは「日本の明日」寒い絵です

* そのうちならないよう祈ります。

きさらぎ彼句吾
 守田啓子
 奈良一艘
 三浦蒼鬼
 鳴海賢治
 むさし
 吉田吹喜
 米山明日歌
 米山明日歌
 村山明日歌
 むさし
 村上あつこ
 須藤しんのすけ
 柳谷たかお
 村井規子

宿題『サイズ』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

ブラジャーに押し込まれてる岩木山
 つれあいは地球サイズのたわけ者
 今日までの不孝測定不能なり
 影法師伸びてページは秋になる
 生殖器枯れてく男の虚しさ
 アダルトなサイズで紙の月を折る
 等身大になる迄夢を咀嚼する
 カマキリの鎌に似合わぬ及び腰
 ミニチュアの人間的な「砂時計」
 戦争と平和のサイズわからない
 散りぎわを尖らせるコーヒーは(M)で
 わたくしを左右しましたハイヒール
 茶碗から始めたダウンサイジング
 余生ですサイズ交換できますか

むさし
 勘右衛門
 村井規子
 柳谷たかお
 石橋芳山
 奈良一艘
 きさらぎ彼句吾
 熊谷冬鼓
 奈良一艘
 坂本清乃
 奈良一艘
 鳴海賢治
 木村美映
 渡邊こあき

この世つてわりと狭くてMサイズ

自由の女神のスリーサイズを書きなさい

幸福のサイズコブシと決めている

生も死もフリーサイズの空の下

サザエさんの髪はたてがみだった 夏

公明正大ラ・フランスのヒップ

満月を定規で測る測量士

【五客】

ハラスメント奴らはコンマ以下である

広大無辺だった神田川のひと間

擦傷にキングサイズのガムテープ

通常のサイズはいやとつるあきら

鳥が飛び立つと小さくなる野原

【人位】

湖より深い老後のもぐり方

【地位】

肩身が狭すぎて炭酸が抜ける

【天位】

免許返納しますサイズは変えません

村井規子
 木村美映
 坂本清乃
 三浦蒼鬼
 守田啓子
 岩根彰子
 笹田隆志
 吉田吹喜
 きさらぎ彼句吾
 笹田隆志
 田久保重蘭
 守田啓子
 守田啓子
 きさらぎ彼句吾
 三浦蒼鬼

* 何も変わらなくても大事なことです。

宿題『自由詠』

青森県青森市 渡邊こあき選

【佳作】

アルバムを開けば止まる思考力
 食品ロスの端っこにいるひきこもり
 お金が無いってスリル満点だね
 のり面が崩れそうです まだ泣きますか
 肩こりが広がる真夏の紋白蝶
 精一杯広げた羽が黄ばみだす
 新ジャガを潰す黄昏ながら哭きながら
 老人とフランスパンは固いのだ
 微炭酸だったあの日の「又あいこ」
 熱帯夜ポキンと折れる音を聴く
 前転に側転大阪はまだか
 香港の雨傘の実の破裂音
 寒立馬ここから先の行き止まり
 わたくしの思いの丈は5メートル

まみどり
 三浦蒼鬼
 吉田吹喜
 守田啓子
 坂本清乃
 まきこ
 奈良一艘
 奈良一艘
 きさらぎ彼句吾
 勘右衛門
 石橋芳山
 奈良一艘
 北野岸柳
 米山明日歌

新しい別れのための服選び

雨上がるポカンと九月の朝になる

水はあふれてそろそろあたしにもどりたい

つくる遊ぶ呑む寝ころぶ几帳面

名前のあとにリボンを付けましょうか

異物混入収まらぬ腹の虫

【五客】

十指みな広げ二歳の無限大

きょうからはおへソを耳にして生きる

指先から渴くあなたを触視して

バス停で踵落としを教わった

辞書を持つ開くページもないくせに

【人位】

宵宮で往生際を買って来た

【地位】

クレヨン横で眠っている白紙

【天位】

正論は現地集合ですからね

* ちゃんと目を見て話さなくちゃ。

米山明日歌
 葉 閑女
 守田啓子
 まみどり
 鳴海賢治
 村上あつこ

土田雅子
 米山明日歌
 きさらぎ彼句吾
 熊谷冬鼓
 北野岸柳
 村井規子
 田久保亜蘭
 まきこ

| 順位 | 氏名 | 打率 |
|----|---------|-------|
| 1 | 奈良一艘 | 0.813 |
| 2 | むさし | 0.688 |
| 3 | 守田啓子 | 0.544 |
| 4 | きさらぎ彼句吾 | 0.530 |
| 5 | 夏草ふぶき | 0.492 |
| 5 | まきこ | 0.492 |
| 7 | 田久保亜蘭 | 0.476 |
| 8 | 月波与生 | 0.472 |
| 9 | 熊谷冬鼓 | 0.460 |
| 10 | 米山明日歌 | 0.444 |
| 11 | 土田雅子 | 0.439 |
| 12 | 石橋芳山 | 0.417 |
| 13 | 小野五郎 | 0.407 |
| 14 | 吉田吹喜 | 0.397 |
| 15 | 須藤しんのすけ | 0.389 |
| 16 | 渡邊こあき | 0.333 |
| 17 | まみどり | 0.319 |
| 18 | 葉閑女 | 0.319 |
| 19 | 鳴海賢治 | 0.292 |
| 20 | 木村美映 | 0.281 |
| 21 | 岩根彰子 | 0.278 |
| 22 | 北野岸柳 | 0.270 |
| 23 | 柳谷たかお | 0.244 |
| 24 | 村上あつこ | 0.236 |
| 25 | 城後朱美 | 0.208 |
| 26 | 笹田隆志 | 0.203 |

打率【選句率】※規定投句数は最大可能投句数の50%

| 順位 | 氏名 | 本数 |
|----|---------|----|
| 1 | むさし | 8 |
| 2 | 夏草ふぶき | 5 |
| 2 | 土田雅子 | 5 |
| 2 | 米山明日歌 | 5 |
| 2 | きさらぎ彼句吾 | 5 |
| 6 | 奈良一艘 | 4 |
| 6 | 守田啓子 | 4 |
| 8 | 岩根彰子 | 3 |
| 8 | まきこ | 3 |
| 8 | 田久保亜蘭 | 3 |
| 8 | 須藤しんのすけ | 3 |

本塁打【3点句数】

| 順位 | 氏名 | 打点 |
|----|---------|----|
| 1 | むさし | 58 |
| 2 | 奈良一艘 | 57 |
| 3 | きさらぎ彼句吾 | 54 |
| 4 | 米山明日歌 | 50 |
| 5 | 夏草ふぶき | 46 |
| 5 | 守田啓子 | 46 |
| 7 | 須藤しんのすけ | 42 |
| 7 | まきこ | 42 |
| 9 | 土田雅子 | 41 |
| 10 | 田久保亜蘭 | 40 |
| 11 | 熊谷冬鼓 | 37 |
| 12 | 吉田吹喜 | 33 |
| 13 | 小野五郎 | 30 |
| 14 | 岩根彰子 | 29 |
| 15 | 月波与生 | 27 |
| 15 | 葉閑女 | 27 |
| 17 | まみどり | 26 |
| 18 | 鳴海賢治 | 24 |
| 19 | 北野岸柳 | 23 |
| 20 | 石橋芳山 | 21 |
| 21 | 木村美映 | 20 |
| 21 | 渡邊こあき | 20 |
| 21 | 三浦蒼鬼 | 20 |
| 24 | 城後朱美 | 19 |
| 24 | 村上あつこ | 19 |
| 26 | 笹田隆志 | 17 |
| 27 | 坂本清乃 | 14 |
| 27 | 柳谷たかお | 14 |
| 29 | 村井規子 | 12 |
| 30 | 野沢省悟 | 7 |
| 30 | 森雄岳 | 7 |
| 30 | Sin | 7 |
| 33 | 勘右衛門 | 4 |
| 34 | ひとは | 3 |

打点【総得点】

二冠王への道

【二冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。

―参加者募集―

「川柳吟行会 ぽ」

―八甲田丸周辺―

守田 啓子

本日は日本の経済発展に大きく貢献してきたという青函連絡船「八甲田丸」を吟行する。青函連絡船は1938年（昭和63年）まで80年間にわたり、青森港と函館港を結び、1億6千万人の乗客と2億5千万トンの貨物を運んだ。とりわけ八甲田丸は23年7ヶ月（S39年からS63年）と青函連絡船歴代55隻の中で就航期間が長かったそうだ。

正確に言えば、その「八甲田丸」をほぼ当時の状態に係留保存した施設である「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」を吟行する。

いつものように各自見て歩き14時30分からアウガ5Fで句会をする。私は11時半に家を出る。久々にアーケードのある新町通りを歩く。さくら野デパー

海側を通り陸奥湾に浮いている青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の乗船口を目指し渡り橋を渡る。

渡り橋揺れる煽れば煽られる 啓子

船に乗るとすぐ右側に受付がありそこで観覧券を500円で購入する。三つ折りになったフロアマップをいただく。受付のあるところが2Fで順路通りに赤い矢印を辿る。昭和30年代の青森駅前のりんご市場や魚市場が驚くほどリアルに再現されている。

りんご箱イスにして見る水平線 こあき

エレベーターや階段で煙突展望台のある4F航海甲板まで行くことができる。ここから青森市内や陸奥湾を一望できる。

甲板の隅に立ってるプリマハム 五郎

1Fは車輛甲板で地下1Fがエンジンルームになっている。昭和29年青函連絡船洞爺丸は台風によって沈没した。車輛甲板には貨車が積まれ開いた扉から海水が流れ込みほぼ裏返しとなった。1155人が行方不明や亡くなるという日本海難史上最大の事故となった。

トの店先では茹でたての嶽きみを売っていた。もう秋だ。「嶽きみ」（だけきみ）とは青森県弘前市の岩木山麓・嶽高原で栽培されているとうもろこしで「きみ」とは津軽弁でとうもろこしのこと。糖度が高く、生でも食べられるほど甘い。

正面の青森駅の西側の青い空から赤と白のクレーンが垂れ下がっている。自由通路の整備工事が始まっていた。駅舎のデジタル時計の表示は11時54分。駅ビルラビナをふらつと見て歩く。1F青森県産野菜売り場にも茹でた嶽きみと焼いた嶽きみが売っていた。お昼のご飯に1本買いうになったが、八甲田丸を見てからお昼にしよう。持ち歩くのはやめよう。と決め八甲田丸へと向かった。

りんごシールド工房・青森物産店の「A-FACTORY」の夏真昼すれ違っていく洞爺丸 さち

「おもてなし」として花の形などに折った飾り毛布の展示や船長室、寝台室、食堂などを見学し八甲田丸を降りた。すぐそこには廃線となった線路がまだ残っている。

小さい頃から身近な存在であった青函連絡船だが、そのスケールの大きさに驚いた。また、本来の役割であった貨物車両を搭載する「車両甲板」であったということであらためて知る。

外はやや強めの晩夏の海の風が心地よく吹いていた。歩いて句会会場のアウガに向かう。

入口も出口も空に続いている 冬鼓

「川柳吟行会 ぽ」 10月吟行

【吟行日時】 10月16日（第3水曜日） 弘前駅前11時集合

【吟行場所】 弘前公園周辺予定

【句会場所】 弘前市内施設（問合せ中）

【参加費】 100円

十和田たてがみ川柳会8月句会

【一時】令和元年8月24日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・木村奈生美・佐藤まさあき・

瀧尻善英・福田芳詔・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『止まる』

村上 昌子 選

【平抜き】

食事中メタボの話し止まる箸

漆館ミノリ

心臓が一瞬止まる残高帳

瀧尻 善英

消費税10%買う意志止まる

漆館ミノリ

止まっても最後まで行く駄馬の足

木村奈生美

目が覚めた夢はいつでも行き止まり

高田 幸柳

雨が止みおもむろに出る縄のれん

佐藤まさあき

吹っ切れた時から止まる走馬灯

瀧尻 善英

【秀逸】

ポケットに止まってもばかり居る主張

木村奈生美

蟹が出てピタリと会話止まる鍋

瀧尻 善英

【特選】

原爆を落とす直前時止まる

福田 芳詔

■席題 『止まる』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

交差点黄で止まるなよ前方車

漆館ミノリ

食事中メタボの話し止まる箸

漆館ミノリ

目が覚めた夢はいつでも行き止まり

高田 幸柳

部屋に来て何しに来たのか立ち止まる

佐藤まさあき

パトカーもオーバーしてる停止線

福田 芳詔

立ち止まる右か左か飛ぶ記憶

高田 幸柳

止まっても最後まで行く駄馬の足

木村奈生美

【秀逸】

この空気読めずに息を止めてみる

村上 昌子

ポケットに止まってもばかり居る主張

木村奈生美

【特選】

雨が止みおもむろに出る縄のれん

佐藤まさあき

■宿題 『どうしよう』

高田 幸柳 選

【平抜き】

庭の草盆に仏がついて来る

村上 昌子

どうしようパソコンサボがない地域

磯島 雅男

官邸のしもべでどうする議員さん

福田 芳詔

帰路に来て優柔不断が顔を出す

佐藤まさあき

結婚か仕事か悩む四十前

城後 朱美

未来凶へどうしようかと揺れるペン

木村奈生美

4人目もオンナで女系家族です

瀧尻 善英

謝るか出て行こうかとまた迷う

城後 朱美

どうしよう古傷ばかり付いて来る

木村奈生美

【秀逸】

傷つけたセリフ元には戻らない

瀧尻 善英

子や孫へNOWAR叫ぶ心配症

村上 昌子

【特選】

世話焼いたつもりが愛と誤解され

瀧尻 善英

■宿題 『ドア』

木村奈生美 選

【平抜き】

共感が心のドアを開けさせる

佐藤まさあき

まごころを売れば扉がよく開く

瀧尻 善英

ドアに鍵かけても無駄よ過疎の村

城後 朱美

わだかまり解ければドアがスツと開く

瀧尻 善英

スニーカー買ったら開けて夢の旅

村上 昌子

独り暮らしプラスαドアチェーン

福田 芳詔

ほしいなあドアを開けたら目的地

漆館ミノリ

弱地震重い扉を開けておく

磯島 雅男

少し窓開けて待つてるクリスマス

高田 幸柳

【秀逸】

今どきのドアのセンサー隙がない

磯島 雅男

今日の糧明日へ続くドアを開け

佐藤まさあき

【特選】

ドア開けて閉めてお一人様となる

城後 朱美

□ **2019.10.12 第19回県下深浦川柳大会**

【日時】令和元年10月12日(土) 受付午前9時30分 席題「印象吟」発表午前10時30分 投句締切午前11時30分 【会場】深浦町大字深浦字苗代沢84の2 深浦町役場文化ホール(電話0173-74-2111) 【会費】4,000円(昼食・懇親会・発表誌) 【席題】『印象吟』(一題二句詠) 千島鉄男・近藤たつお・北山まみどり・むさし四人選 【宿題】(各題二句詠) 『レシート』田沢恒坊・成田我楽共選 / 『ウフフ』池田郷太郎・福士慕情共選 / 『熊』沢田百合子・佐々木良可共選 【特別選】『踵』(一句詠) 濱山哲也・大黒谷サチエ・工藤まさひろ・太田久・渡辺松風 五人選 ◇選者 交渉中 【呈賞】宿題・席題合計点第二十位まで・特別選第三位まで 【懇親会】大会終了後 【事務局】草野力丸(電話0173-74-3016) 【主催】県下深浦川柳大会実行委員会 【主管】しらかみ吟社 【後援】深浦町・深浦町文化協会

□ **2019.11.03 第55回青森市民文化祭川柳大会**

【日時】令和元年11月3日(日) 受付午前11時 席題発表12時 投句締切午後1時 【会場】リンクステーションホール青森(青森市文化会館)4階中会議室 【会費】1,000円(発表誌含) 【懇親会費】2,000円(当日受付) 【宿題】(各題2句詠) 投句拝辞「壁」伊藤良彦選 「すつきり」まきこ選 「逆転」依屋酔光選 【席題】(各題2句詠・共選) 「 」柴田重虎・吉田州花選 「 」山本弘志・葉閑女選 【特別選】(2句詠) 「祝」滝尻善英選 【呈賞】各題共 特選賞・初声賞 【懇親会】大会終了後同会場にて懇親会を行います。 *青森市以外からの参加も歓迎します 【主催】青森市川柳連盟 【後援】青森市文化団体協議会 【連絡先】電話017-739-7137 太田久

□ **2020.01.31 〃 2020年青森県川柳年鑑「ねぶた」作品募集**

【応募資格】青森県在住または青森県内の結社に所属している方【応募料】3000円(切手不可) 【対象作品】残しておきたい自選10句・作品にタイトル(タイトルなしも可) 【応募用紙】所定用紙(コピー可) またはA4用紙に楷書で住所・氏名(姓と柳号・本名)・電話番号・年齢・性別・柳歴・所属結社(2社まで) 【掲載内容】A5版の冊子に作品・姓と柳号・住所・電話番号・所属結社(住所と電話番号は任意、その他はデータ資料として活用予定) その他不浪人賞、年度賞、蝶五郎賞、文芸コンクール、新聞の柳壇、東奥少年少女文芸大会、各大会の記録、各結社の呈賞、柳壇トピックなど 【募集期間】2019年10月～2020年1月末日 【発表】2020年4～5月予定 【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島雉子森3-3 青森県川柳連盟 川柳年鑑係 【問合せ】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080・5574・9297

十和田たてがみ川柳会10月句会

【時】10月19日(土) 午前10時00分から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠) 『賑やか』高田幸柳選 / 『入門』木村奈生美選 【互選】(二句詠) 『一の舞』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳

- | | |
|--|--|
| <p>① 透明な十和田の湖に神宿る</p> <p>① 透明のグラス氷は夢の数</p> <p>① 密室で透明誓う裏の顔</p> <p>① あまりにも淨くて鯉が棲めぬ池</p> <p>② にごり無い瞳の頃を閉じて見る</p> <p>② これ以上濁らせないで白内障</p> <p>② 不透明残してモリカケ終結す</p> <p>② 汚染なし言い切る政権不透明</p> <p>② 許し合う胸の内透き通るまま</p> | <p>佐藤まさあき</p> <p>木村奈生美</p> <p>高田 幸柳</p> <p>瀧尻 善英</p> <p>村上 昌子</p> <p>福田 芳詔</p> <p>佐藤まさあき</p> <p>村上 昌子</p> <p>木村奈生美</p> |
|--|--|

■宿題『透明』 互選

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□ 10/22(火)「貌」 □ 11/12(火)「消す」 □ 11/26(火)「貸す」

□ 12/10(火)「着物」 □ 12/24(火)「生む」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3
むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail : hmusashi@r66.7-dj.com

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2019.10.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳！むさし流！

毎週土曜日お昼12時から放送中！ 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。10月15日締切。11月放送【題】「ほろほろ」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳！むさし流！係 ※FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186 もOKです。



□ 2019.10.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(12月号分)

【締切】10月20日必着【掲載】12/10 発行号【提出先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>



□ 2019.11.02 おかじょうき川柳社本社 11 月句会

【時】11月2日(土)午後1時～【所】アウガ5階企画ワーク室③
④【宿題】(各題3句詠)『加』/『ショー』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>



□ 2019.11.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳！むさし流！

毎週土曜日お昼12時から放送中！ 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。11月15日締切。12月放送【題】「鍵」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳！むさし流！係 ※FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186 もOKです。



□ 2019.12.01 川柳忘年会 2019

■おかじょうき川柳社 川柳忘年会2019【日時】12月1日(日)13時～【場所】ラ・プラス青い森(青森市中央1-11-18) ☎017-734-4371【会費】4,000円(句会・懇親会費)【席題】2題各3句詠・2人共選

※この用紙を切り取るか、コピーしてお使いください。

会員雑詠「無人駅」投句用紙

柳号

住所

府 都 道
県

町 区 市
村

※楷書でハッキリとお書きください。

★お気に入りの一句(最新号からお好きな作品一句と、それに対する簡単なコメントをお書きください。)

コメント

【投句先】
〒030-0861
青森市長島4-23-4-102
守田啓子 宛
FAX.017-723-5696

■会費拝受（8月受付分） ※太字は新会員

渡邊こあき・笹田隆志・豊澤かな江（青森市）/ 河野潤々（北海道）

■おかじょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

--- 終着駅 Sin ---

◆ラグビーW杯2019が開幕した。この原稿を書いている時点では、日本がアイルランドに勝って2連勝している。大会中も刻々と世界ランクが変わるので、現在は違うが、大会直前の世界ランク1位はアイルランドだった。前回2015年で日本中が沸きに沸いた世界ランク3位・南アフリカ戦の奇跡の逆転勝利を経験しているものの、番狂わせが少ないラグビーにおいて、そう都合よく世界1位に勝てるわけがないと思っていた。思っていたというより、他のスポーツでも、これまでさんざんメディアの煽り記事に踊らされて期待させられ、世界の壁に粉々に砕かれた試合を幾度となく経験していることで、自己防衛本能が働いているのだろう。勝ってほしいとは思いますが、世界はそんなに甘

いものではないぞと、自分を戒めていた。が、である。いくらホームの利があるとはいえ、あのアイルランドに勝利、しかも後半無得点に抑えるだなんて、試合終了間際、「ホントに!? ホントに!？」と何度口にしただろう。初めて百均に行った時くらいに「ホントに!？」を連発し、ノーサイド後は感動というより、感心してしまった。このあとの Samoa、スコットランド戦の結果次第だが、これがジャイアント・キリングではなく、日本が強豪国となった歴史的な勝利になってもらいたい。となれば、ニュージーランドのオールブラックスが試合前に「ハカ」を披露するように、日本も強豪国として、「サムライ」とか「ニンジャ」とか名前をつけた踊りと掛け声で会場を沸かせるくらいになって欲しい◆ Sin

